

---

# チート主が歩む軌跡

厨二病な人

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

チート主が歩む軌跡

### 【Zコード】

N7332Y

### 【作者名】

厨二病な人

### 【あらすじ】

・・・・・ゑ？転生ですか？さいですか。

ひょんなことから転生してしまった一人の厨二病な青年。

その青年が歩むは最強オリ主物語。

「ふへへ、俺の最強の力で世界を侵略してやるでゲス」

青年が望んだ世界は《ネギま》しかし、実際送り込まれた世界は

・・

涙も笑いもないけど、外道はあるかも？

そんな青年の転生ライフを綴った物語です。

## 初めに（前書き）

この小説の注意事項です。

## 初めに

・世界観を壊します！原作好きなな方は不快な思いをすると思います。

・キャラ崩壊や所属組織の違いがあります。

・流れとしては原作に沿いますが、完全な原作沿いではありません。軌跡の舞台と設定、キャラを使った別の作品と考えてください。

・主人公は最強です。あとバカです。

・他のマンガやアニメの組織名・技名がでたりします。

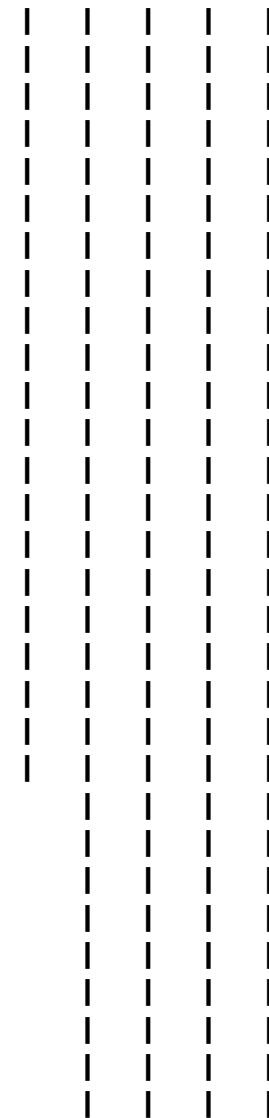
・ハーレム物にするつもりです。

・不定期更新です。

・あと、駄文です　ｗｗ

それでもよこ方はどうぞ、読んでやつてくださいな。

以下、字稼ぎ



## 主人公紹介（前書き）

主人公の紹介？です。

## 主人公紹介

名前 シュウ・スカーレット(リベール)

性別 男

生まれ 古代ゼムリア文明

年齢 ?歳(肉体は19歳)

神様からもらったチート

?不老(19歳になつたら)

?限界のない肉体

?神眼(「万華鏡写輪眼、白眼、直死の魔眼、絶対遵守のギアスの

能力」を持つ眼)

?完成(ジエンド  
オールフィクション)

?大嘘憑き

?あらゆる干渉を否定し我を通す程度の能力

?音遣い

?曲弦師

??

前世では厨二病だった為、ぼっちだった。

神様の粋な計らいでイケメンになれた(ヽ・ヽ・ヽ)キリッ

これで友達ができるといいなあ(本人談)

## 主人公紹介（後書き）

世界觀を壊す予定です。

そういうのが嫌な方は、御覧にならない方がよろしいと思います。

## プロローグ（前書き）

はじめまして！厨一病な人です。w

略して「厨一さんです」w

初めての投稿なので拙ごとがあつあつあります

よろしくお願ひします。

ではでは本編をどうぞ！

## プロローグ

ん？・・・辺りが暗いな。真っ暗だ。

俺は昨日、部屋でHロロゲをやっていた筈だが此処はどうだ？

ハツ！これはもじゅ隱された能力が発現するフリグか？！

ふひひ♪力が目覚めた瞬には俺を見下してきた奴らにふくすよ

「もうひの田を開けてくれんかの？」

はあ？

ああ。なんだ、田を開じていただけか。（きやつ！恥ずかしい／＼）

「おぬし、キモイデ

うつせえ！！

まあいい。田を開いてみよう。

其処には真っ白な空間が広がっていた。

「ちやんと見えてあるかのひへ。」

声がした方を見ると其処にマムな豆粒並に小さくおつせんが  
居た。

「本当は大きいんじゃ……エロで小さくなつたんだけじゃ……」

小さくなるだけで何がエロにつながるんだ？

「まあいい。オホン。さて、これで話が進められるのう。おぬしの状況を説明しよう。

結論から言えれば、おぬしは死んだ。」

ナ、ナンダッテー！（。 。 ;）

～～～テンプレ的 説明中～～～

要するに10個特典をつけて転生をさせてくれるひとだな。

「アリヒーリとじや」

ふむ、なら・・・

?不老の肉体（19歳になつたら発動）

?鍛えても限界のない肉体

?神眼（万華鏡写輪眼、白眼、直死の魔眼、絶対遵守のギアスの能力を持つた眼）

めだかボックスから

? 完成 ジ・エンド

? 大嘔憑き オールフィクション

? 鬼巫女の「あらゆる干渉を否定し我を通す程度の能力」

「十分チートじゃのう。神殺しにでもなるつもりか?」

「うつせい! せつかくの機会だ、最強になつてやる(・・・・)キリッ

戯言・人間シリーズから

? 音遣い

? 曲弦師

「ふむふむ。で、あと一つはなんじや?」

「ふふ。後一つは - - - だ!!

「- - - - 制限をかけさせてもうつがよいか?」

ちひつ。しゃあねえな。まあいいぜ。

「つむ。了解じゃ」

／＼＼神たま 能力付加中／＼＼

ひびるひるひるひるひる

ふふふ。ふははははは！－！－！

力が漲つてくるぞー！！！

一では、世界へ行つてもらおうかの

この穴に飛ひ込めにしんたな！

待て、俺の嫁達！！

殺那木乃香俺だあ結婚してくれ！！！

あいださん

「やつこえば、あやつに転生先を聞いたかの？……ま、よこか（笑）。

さて、東方の続きをやるつかの「WW」

## プロローグ（後書き）

「いやあで読んでください。ありがとうございます。

誤字・脱字がありました報告してくださいるとありがとうございます。

アドバイスなどもあると嬉しいです！

## 第一話 俺 転生（前書き）

はい、厨二病な人です。

本編をどうぞ！

## 第一話 僕 転生

どうせ、ショウ・リベルです。

今、5歳です。え?今までのことは書かないのかって?

書ける訳ないだろ~~~~~

強いて言つなら赤ちゃんプレイはコレ(ゲフンゲフン  
まあ、俺はどうやら魔法世界の生まれらしい。

何故分かつたつて?大人たちがカツコイイ魔法を使ってたし

モノレールみたいのが空中を走っていたからだ!!

ただ、未来つていう可能性も捨てきれない。

だとしたら超に会えるか?

難しそうだな・・・。

そういうば、3歳の頃から気の訓練をしている!

モチロン親にはばれてない(・・・・)キリッ

魔法はいつになつたら教えてもらえるんだろうか?

この街に住んでる人々は優秀らしい。

その証拠として、魔法発動体を使わずに魔法を使用してたしな。

ただ、どれも聞いたことのない魔法ばかりだ。

さて、今日も特訓するぜーー！

7歳

ビーブル、シユウです。

最近知ったのですが、この街浮いているらしいです。

『リベル＝アーク』っていうらしいです。

あれ？「ネギま」にそんなもん出てきたっけ？

あ、気の扱いは大方できるよくなりました！

親父が刀の達人らしいので教えてもらつてます！！

あと、母親がいつまでたつても可愛いまま困ります／＼

もひ、特訓の時間だ。鬱だ・・・

9歳

父親に圧勝できるようになってしまったwww

自分の才能が怖いな（笑）

そういえば、魔法の正体が分かった！

黒い半円球の道具を使って魔法を具現化するらしいです。

強くイメージするのが大切なんだとか。

よくわかんね~~~~~

10歳

気がついたらこの街最強の魔法剣士になっていた。

あ、俺の姿について言ってなかつたな。

俺の姿は・・・ナギ・スプリングフィールドと同じだ。

銀髪だけどな。

今日も仲間を連れて、兵士達をからかいにいくか~~~~~

仲間と鍛えあつたり、兵士と戦つたり

馬鹿をやりながら平和な日常を楽しんでた。

19歳

今日は誕生日だ。

だが・・・

だが・・・

なぜ、なんで、仲間こまわの、家族の、街の、兵士の死体が周りにあるんだ――――

俺は昨日ベッドで寝てた筈。なのに起きたら死体に囲まれ見たこともない場所で寝ていた。

いつまでも絶望に暮れてる訳にもいかないので

墓を作り死体を埋めて 辺りの探索に出た。

そしたら、街の人口から考えたら少ないが生き残りが居た。

その人たちと話し合い、墓へ黙祷しに行つた。

その後分かつた事なのだが、『リベル・アーク』は暴走する危険性があつたらしい。

それを阻止するために封印したんだとか。

よくわかんねーな。

ほこやらう・あうすれーぜって人が謝罪していた。

その人の命をもって最後の封印をするらしい。

俺はそれに協力した。

封印後、俺はあの人の養子になつたことを生き残つた人々に説明した。

反感などもなく、皆受け入れてくれた

俺こと、シュウ・R・アウスレー・ゼ 初代国王として

【リベル王國】

を作つた。

## 第一話 俺 転生（後書き）

ありがとうございました！

誤字・脱字がありましたら報告してくださいと書ぎます！

## 第一話 緊急クエスト 「古龍、討伐…」（前書き）

「いつも…厨…です。」

もつそろ原作キャラを出したくなつたので

あの方に出てもらいました！

そして初めての戦闘描写。

上手く表現できるか分かりませんが

楽しんでもらえたら幸いです！

では、本編どうぞ！

## 第一話 緊急クエスト 「古龍、討伐ー！」

皆の衆、ヒトばみーwwwシユウ・スカーレットだすwww  
え？名前とキャラ変わってるって？

リベル姓は国に、アウスレーゼ姓は子孫に託してきた！

実はいつと前回から300年経つてるので。

その間、何をしてたかというと主に修行をしてた。

修行の結果・・・舞空術と飛天御剣流が使えるようになったwww

空飛んだ時はビビッたね。だって朝起きたら身体浮いてたんだもん

www

そういうえば、『リベル』アーチを封印する為に異次元の扉を開いたせいか

魔物？まあ地上では見かけなかつた生き物が200年前ぐらいから現れるようになつた。

世界は争いでそれどころではないがな。

俺の任期中はなんとか争いがなかつたが、魔物が出てきたらへんから國同士が

争い始めたな。

俺も危険そうな魔物を狩っているが、一向に減りそうにない。

もしかして人の感情と関係あつたりするか？

・・・どうでもいいつか（ 、 \* ッ ）

今はどつかの山を登つてゐる。

何故かつて？ここに山があるからね（ 、 、 、 、 ）キリッ

痛い、痛い。石投げないで！

本当は山の上へんから強そつな氣を感じるからだ。

俺あつえー奴と戦いてえんだ！！

と、いつことで到着。

この横穴の奥から、ヒシヒシと強者の氣を感じる。

よしーいぐぜーー！

中に入ると其処には、天井にあいた大きな穴から降り注ぐ光が幻想的に輝く広大な空間があった。

「うおおお、めっちゃキレイだ！」此処に何の用だ、人の子よ

あ？ んだよつて・・・で、でけえ！――――！

声のした奥の暗がりを見ると碧い巨大な竜が鎮座していた。

「もつー一度問おう。此処に何の用だ、人の子よ」

強い氣を感じたから来たんだ！！俺と勝負しろ！

「ふむ。本来なら断るのだが、おぬしは普通の人人の子とは違うようだ。

殺さぬ程度に相手をしてやろう。」

上等だ！

俺は《麒麟功》を使い身体能力の底上げをした。つけ、初撃は譲つてくれるってか。

竜は静観してるだけだった。

吠え面かかせてやる！！喰らいやがれ《てきとーに右パンチ》

直撃だがあまり効いてないようだ。

「これは・・・本気を出すか」

そういうと竜は呪文を唱えた。

## 【プレッシャーエクスプロジェクト】

なんだ？

そう思つていたら上空から高エネルギーをかんじた。

やつべ！！！

瞬動を使い全力で避けた。

俺がさつきまで居た場所にはクレーターができていた（：・・・・・）

やつぱつえーなwww

俺は《分け身》を使い、分身を一人として連携して技を放つた。

分身1 《光連斬》

本体 《龍巻閃・「枯」・「旋」・「嵐」》

分身2 《竜槌・翔閃》

「ぐうう・・・・」

これは効くんだな！ならトドメだ！！

俺は分身を解き、体内の気を練つた。

思い描くは最強の一撃。

くらいやがれえええ……！

『天翔龍門』

ズシンツー！！

竜は大きな音をたてて倒れた。

はあはあ。うつっしゃ――――――――！

勝つたぞおおおお――――――――！

俺が喜んでもと、いつのまにか倒れてた竜が起き上がっていた。

「いい一撃だつた。人の子にしてはおぬしは強いな。」

へつー当たり前だろ。俺は最強の剣士シュウ・スカーレット様だぜ！

その後、竜と話しながら酒を飲んだ。竜つて酒飲めるんだなww

そしたら何時の間にか、レグナー<sup>ダチ</sup>トとは友達になつてた！

レグナートって誰かつて？

竜の名だ！俺様が名付けてやつた（・・）

俺様の次にカツコイイ名だな！

そして、俺はレグナーートと別れた。

――現在 七耀暦 300年頃――

おまけ

レグナーートから竜の素材を貰つた。

これでなんか装備作るうかな？

最強の刀や最強な鎧・・・うん

考えれば考える程アイデアがでてくる　ｗｗ

夢がひろがりんぐ

## 第一話 緊急クエスト 「古龍、討伐…！」（後書き）

ここまで読んでくださってありがとうございます！

誤字・脱字・アドバイスがありましたら、教授してくださいると  
ものすごく嬉しいです！

クラフトには『』をアーチは【】使ってみました。

見やすいですかね？

主人公のセリフにも「」使つた方が読みやすいかな？

意見待つてます！

## 主人公ステータス表？（前書き）

七耀300年時のステータスです！

## 主人公ステータス表?

シユウ・スカーレット

319歳

LV.83

HP: 11524

EP: ?

STR: 722 DEF: 710

ATS: ? ADF: ?

SPD: 76 DEX: 28

AGL: 29

容姿 「ネギま!」のナギ・スプリングフィールド

### 装備

武器 鍛え抜かれた刀

防具 なんか凄いロープ

足具 宝具からくすねた靴

## アクセサリー

・不思議な口ケツト

・222歳の時、記念に作った指輪

## クラフト

麒麟功 CP . 20 消費

体内の氣を瞬時に練りげ、一定ターンSTRとSPDを上昇させる

万華鏡写輪眼

・魔幻 楠杭の術 CP . 15 消費

使用すると敵の体は杭が刺さった光景となり、身動きが取れなくなる。3ターン麻痺。

・天照 CP . 30 消費

太陽の如き高温の黒い炎を出現させる。その炎は対象物が燃え尽きるまで消えない。炎傷。

・月読 CP . 30 消費

瞳力の宿つた目を見た相手に術者が時間や空間、質量などあらゆる物理的要因を支配する自らの精神世界へと対象を引きずり込み、相手に無間地獄を体験させる幻術。80%即死&混乱。

・神威 CP . 50 消費

「結界空間」と呼ばれるものを視界に展開し、術者の任意の範囲内の物質を別空間へ転送する術。3ターン退場。

・（別天神 CP・200消費）

瞳力の宿つた目を見た対象者を、幻術に掛けられたと自覚する事なく操る事ができる

正に最強の幻術。対象者を3ターン操る。

直死の魔眼 CP・50消費

『モノの死』を形ある視覚情報として見て、捉える異能。即死攻撃。

分け身 CP・20消費

気を練り上げ、己の分身を作る。

てきとーに右パンチ CP・30

気合いと勢いとノリが籠もったパンチ。名前の割には最高クラスの破壊力を誇る。

光連斬 CP・25消費

無拍子で敵に近づき高速の連撃で突き抜け る。

龍鳴閃 CP・10消費

神速の納刀術。高速で刀を鞘に收め、この時発生する龍の嘶きの如き超音波の鐔鳴りを

すれ違い様に相手の耳に叩き込んで、一時的に相手の聴覚を強制麻痺させる技。アーツ解除&封ア

竜槌・翔閃 CP・30消費

神速で相手の懷に入り鞘で相手を空中に打ち上げ、

高空から打ち下ろした後、更にふりつく相手を斬り上げる、激しい三連撃。

龍巻閃・「枯」「旋」「嵐」 CP · 50

相手の目前で刀を上段に構えて跳躍し、前転し、その勢いを利用して刀を振り下ろす技。

剣技【竜巻閃・「枯」】、【竜巻閃・「旋」】、【竜巻閃・「嵐」】の三つの剣技を組み合わせた技。

## Sクラフト

九頭龍閃

剣術に於ける斬撃には「唐竹（切落）」「袈裟斬り」「逆袈裟」「

右薙（胴）」

「左薙（逆胴）」「右切上」「左切上」「逆風（切上）」「刺突」の九種類があるが、

これは飛天御剣流が誇る所の「神速」を最大限に生かし、刀が斬り付けるべき9つの場所全てにほぼ同時に斬撃を送り、更に突進して相手に全く防御させない技。

天翔龍閃

飛天御剣流最強の技。飛天御剣流が誇る所の「神速」を更に越える「速さ」を持つ抜刀術。

自在に操る為には、「生きようとする意志」が必要である。具体的には、

抜刀の際に右足ではなく左足から踏み出し、

加速と衝撃力を上乗せする事により、大きな破壊力を得る。

滅技・死屍累々

写輪眼の動体視力と直死の魔眼、飛天御剣流の刀技、チートな身体能力を最大限に使った殲滅奥義。

超神速に乗つて繰り出される太刀筋は見切ることは不可能。即死+状態異常+すぐ行動。

## 主人公ステータス表？（後書き）

チート過ぎますかね？

誤字・脱字の報告やアドバイス待っています（ ^ ^ ）

## 第三話 心の支えって凄い（前書き）

主人公が勘違いに気がつきます！

そして今回は短いです。

では、本編をどうぞ！

## 第三話 心の支えつて凄い

ビツモー・シユウ・スカーレットです!!

ただいま、もの凄く頑丈かつ柔軟な糸を作成中です。

いやあ～だつてね?なんか飽きちゃつたんだもん ついでに

世の中もだんだん落ち着いてきたしね。

200年ぐらい前かな?七耀教会（セブンセイキョウキョウ）が出来て宗教による救済が広まつていったんだわ。

あの勢いは凄かつたな・・・。それだけ人々が救いを求めてたつてことだけさ。

まあ俺が広めるのを手伝つたんだけどなww

その代わりに法力を教えて貰つたゾ

法力を自分が使いやすいように改造したら魔法みたいになっちゃつたw

使い勝手悪いから戦闘には使えんが転移が使えるようになったのはありがたい。

でだ、ここからが重要なんだが教義の神様の名前が。『空の女神』（エイドス）とこうらじい。

それがなんだつて？此処はネギまの世界じゃなこいつことだよおお

前から怪しいとは思つてたが本当にそうだとは思わなかつた。」

年号や神の名から俺の好きな軌跡シリーズだと断定した！

それならそれでアリだなwwwつことで転生ライフを楽しinでます  
( ^ ^ )

そんなこんなで、世間も落ち着き俺も飽きたので新しい武器として

頑丈かつ柔軟な糸を作成してゐるのさ。

でけた  
W  
W

これでサニとニキ《音使い》と《曲絃師》のスキルが使える。

あ  
リギヤリニーハとか樂器作ハかなか?

——現在  
七耀曆  
700年頃——

おまけ

やつぱい！糸が剣より便利すぐるWW

・・・剣、やめちゃおつかな？（笑）

なんて考えながら、調子こいて糸で切断しまくった森だったものの  
前で

現実逃避をするのだつた。

## 第三話 心の支えって凄い（後書き）

いいもで読んでくださいありがと「うれこ」ます！

誤字・脱字等がありましたら教えてくださいあります。

次回は獅子戦役かもしくはその前に組織を作るかもしません。

## 闇話 ～ある日の父との訓練（下ネタあり）～（前書き）

どうもつす！

今回の注意として、意味が分からなさすぎて正気が削れる可能性があります。そういう心配がある方は読まない方がよろしいと思います。

主人公が飛天御剣流を覚えるキッカケになつた出来事を書きました。  
主人公の父の流派はヒテンミツルギスタイルです。

下ネタがふんだんに入つてます。

意味の分からなさ加減もはんぱないです。

では、本編どうぞ！

## 闇話～ある日の父との訓練（下ネタあつ）～

ぐーでんもるげん シュウ・リベルです！

今日は朝からパパ上と剣の訓練です。

ママ上も見守りてくれるみたいです！！

やる気がモリモリです（ ^ ^ ）

パパ上が使う剣術は「ヒテンーミツルギースタイル」というらしいです。

あれ?どうかで聞いたことあるよ!うな・・・。

父によると、では今田の訓練を始めるぞ！」

シニヤーはレ!! 父上!!

父ノン!ハハ上と呼ベ!!!」

シナモンノノ上!

父「うむ。よひじよ」と言つても今日はわたす「シユウがやん座  
我しなこよひよ~」おー、

私が喋つてになると、「せこーママ上。怪我には気をつけます」

o  
r  
z  
L

シユウ「パパ上? どうなさつたのですか?」

父「もういい。もういいもん。(・・・・)」

シユウ「ば、パパ上、元気をだしてください」(苦笑)

「小一時間」

父「うむ。では私と試合をしてもらひなが」

シユウ「はい!」

母「では、両者構え。・・・始め!」

その合図と共に父上から凄まじい気が溢れだした。

そして、父は一人に分かれた。

シユウ「えつ?」

父2「え、チ「痺れた! 何とかせい! 尿出ません!」

ルパン：「はあ~」 誰?!

父1「尿!」

尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿  
尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿  
尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿

先手を取られまいと、覚えたての瞬動を使い父上の前まで移動した。

父2「出なー、よ、わー」

そしたら、もう一人の父上に軽い爆発魔法を使われた。

シユウ「！-はあ」  
ひい  
ふう

ああ ああ あめ ああ

母「チン」しょ

「ボワレーポーラー」

父の訳の分からぬ言葉と共に放たれた神速な連撃は私にキレイに決まつていつた。

母「犬から犬へ！」

父2「タバコに何で酒入れた?カビゴン2号」

通行人「千葉つて、言いにくいやね・・・」

父「ん〜〜〜〜〜わあ!」

ふらついている私に父上は連撃をぶんぶんかましてくる。

とこうか手加減してください（・へ　へ）

母「材質ティ　口」

母上、いきなり何言つてるんですか！！！！！

父2「ベース吹いたぞ　ｗｗｗｗｗ」

父1「凹んだペ　スに直撃ですか？コンテナ食わねーか！？ベースボ――――ル！」

一瞬にして九つの突きを放つてきた。これは避けれないし防げないな・・・。

シユウ「よつひらり　×　パオーン！」

俺は意味の分からぬ言葉を吐きながら突きの勢いに飛ばされて後ろに吹っ飛んだ。

シユウ「くぅー！」

なんとか意識を飛ばさずに耐えたか・・・。体いてえ。

母「スリーベース・・・」

あ、ダメだ。この試合始まってから皆おかしい。

「 こうなつたら俺もおかしくなつてもいい！！親父に一矢報いてやる  
！！

シユウ「He y! アキ~ラ ペンギン貸してくれ たかが粗チ~」

その後の記憶はない。

おまけ

そういうえば私や僕から俺になつたのつてあの時からだな。

・・・ゑ？マジかよ・・・。

親父のせいか？俺がバカなのは（。 。 ）！

## 闇話 ～おの口のダメとの訓練（トネタあつ）～（後編）

下品なネタ書いてすみません。

どうしても書いてみたかったんですね！

いいまでも読んでくださいの方、ありがとうございます！

## 第四話 幼女を保護した（前書き）

閑話の酷さが・・・

原作ブレイクとして、あの人の義父兼師匠になります。

では、どうぞ！

## 第四話 幼女を保護した

いつも、ショウ・スカーレットだ。

最近、不穏な空気が流れ始めてきた。

また、戦争が起るんだろうな。

人はいつになつても争いを繰り返す。

まあそれが人が所以なのだろう。

そんなことはどうでもいい！！

今日は重大な発表がある！

俺に娘兼弟子ができたぜ！－！－！－！

名前を「リアンヌ・S・サンデロット」と云つ。

金髪で愛くるしい俺の娘だ

年齢も10歳でめちゃくちゃ可愛い！－！

この子との出逢いは悲惨だった。

（回想）

リアが住んでた村は長閑で村人も優しく、平和な場所だった。

だが、ある日村が賊に襲われ村人が悉く惨殺されていった。

男は殺され、女は犯されてから殺された。

そしてこの子は殺される父親と犯され殺される母親を見てしまった。  
咄嗟の行動だつたんだろう、俺が駆けつけた時には既に

リアが槍を持ち両親を殺した賊を屠つた後だった。

その後、俺は村を襲つた賊を全員殺しリアを保護した。

（回想 終了）

そして現在に至るつて訳さ。

あの子の意思で、強くなりたいって願つてきた。

俺は危ないので反対したがその想いは強いらしく、眼が真剣だった  
ので

戦い方を教えることにした。

いざ教えるにしても基礎体力が必要な為、最初のうちは

身体能力を向上させることをメインに行つた。

そして技を教え始めてから驚愕した。

リアは天賦の才があるようだ。スポンジの様に教えていくことを吸収し

自分のモノにしていく。特に槍技は群を抜いて才能があった。

父親がチートなら娘もチートでもいいよな・・・？

てなことで、娘のチート化計画が始まった。

「おとーさん、稽古つけてくださいーー！」

よし、リアが呼んでるから行くかw

（現在 七耀暦 920年頃）

#### 第四話 幼女を保護した（後書き）

ここまで読んでいただきありがとうございました。

こんな駄文を読んでもくれる人が居るだけで私は嬉しいです！

感想をくれる方も居て、自分の設定や構成の甘さなどが分かり

もの凄く助かっています！ありがとうございます！

誤字・脱字がありましたら報告してくださいとあります。

## 闇話～娘との修行～（前書き）

どつも、厨一です。

私の勝手な妄想でリアンヌさんと絡ませたかったので

闇話を挿みました！

マジキチや意味不な内容にはしなこうとに書きました。

暇つぶしこともなれば幸いです。

文章の構成も変えて見ました！

次回には戻しますがw

では、どつも。

## 闇話 ～娘との修行～

仄暗い洞窟の中に、一人の青年・シュウとそれに連れ添うよつて歩いている少女・リアンヌが居た。

洞窟の雰囲気は怪しく、一寸先の闇からは人のものとは思えない気配を感じる。

既に魔物に囮まれてゐるのではないかと錯覚すら覚える。

青年は愛用の糸を張り廻らし気配を読む。少女は手に馴染みはじめたランスを構える。

この洞窟に住む魔物程度、青年にはてんて問題ないが少女にとつては氣の抜けるような

場所ではないのだ。そもそも何故、このような場所に居るかと云ふと話は今朝方まで戻る。

いつも通り、シュウはリアンヌに稽古をつけていた。

リアンヌの才能には目を見張るものがあり、教えることをどんどん自分のモノにしていく。

最近では魔物相手に実戦もさせ経験を積ませていた。

あらゆる環境においても戦えるようになり、時には水場で、時には砂場で、時には細道で

時には橋の上で、絶壁の手前、水中、森林、空中など。

そんなこんなで今回ばかりはじつと考えながら、酒場で情報を集める。

するとどうだらうか。なにやら、とてもとても強い魔物がわんさか居る洞窟があると

いつ話を聞いた。それだけではなく、その洞窟にはお宝が隠されているとの話だ。

これを聞いたショウはニヤリと笑い酒場から出た。

そして娘を連れその洞窟に来たのだ。

今回の修行（宝探し）においての役割はショウはサポート、リアンヌはメインアタッカーだ。

リアンヌにとっては格上な魔物ばかりだ。それにも拘らず確実の一体魔物を屠っていく。

それも段々と効率よく動き、その動きも環境に適応していく。実戦といつ環境で

急成長しているらしい。蛙の子は蛙。やはりチートの娘はチートになるのだろうか？

そんなことを考えながら娘に致命傷が当たらぬ様に巧みに糸で敵を切り裂く。

だいぶ奥まで進んだらうが、ひらけた場所に出た。二二二が最果てらしい。

「お父さん。やつと着きましたね！」

リアは元気なことだ。あれだけ戦闘を繰り返したにも拘らず体力にはまだ余裕がありそうだ。

よく見ると置くにほんのりと光る物が見える。

リアはいち早くそれに気がつき駆け寄りうつした。

「リア……上だ氣をつける……」

俺の言葉にリアはバックステップオオした。

さっきまでリアが居た場所には人が立っていた。

一言で表すなら筋肉。二二二にはウホッ。おまけにいい漢だ。

あれ?ここどつかで見たことがあるが?

そう思つてみると漢は喋りかけてきた。

「おめえら、二二二がガウル様の住処だと分かってきとんだらうな?」

ボワアツ!

その瞬間、ガウルという筋肉の固まりにから発せられる殺氣と威圧

「」の空間は満たされた。

リアもさつさまで戦つてきた魔物とは訳が違つと、冷や汗をかいてるよつだ。

この漢にリアはまだはええ。

「リアー！コイツとは俺がやる。お前はひつこんでろー！」

リアも流石に今の自分では叶わないことが分かつて、からか素直に引いた。

「お父さん。負けないでくださいー！」

元気が出てきた！

お互に、肉弾戦から氣を使った技でお互いを削りあつ。

あまりにも長引くので、途中休憩を挟み、談笑し、宝を貰い、外に出て再戦した。

その戦いは何回こもお遊び辺りの地形を変形させていった。

時には酒を飲み語らい、飯を食い、勝負していった。

気がついた時にほそいつは仲間になつていた。

おまけ

シユウ「そりいえば宝ってなんなんだ？」

俺はリアに聞いた。

リア「なんか力の封じ込められたランスです！」

ガウ「そいつは、俺様が住み着いた時からあつたからな。俺様でも扱えなかつたぜ」

ガウルはそういうと豪快に笑っていた。

リア「私、これ扱えるような気がします！なんていうか一心同体な感じがするんです！」

リアには何か感じるモノがあるみたいだ。

シユウ「へつ！ガウルてえめーには扱えない物は俺の娘リアには扱えるらしいぜ！」

まあガウルは俺様より雑魚さけえからしゃあねえーかwww

ガウル「あ？俺様の方が強えーに決まってんだろう！」

シユウ「あん?...やんのか」「ハハ...」

ガウル「上等だ!...かかつて」「いや...」

そして殴り合いが始まる。

## 閑話～娘との修行～（後書き）

読んでくださいありがとうございます！

オリキャラをだしてみました。

分かる人には何のキャラが元になつてるか分かっちゃうと思います  
(苦笑)

誤字・脱字、アドバイスなどありましたら教えてもらえるとありがたいです！

## オリキャラ（バグキャラ）紹介（前書き）

闇話に出てきたキャラについてです。

ちなみに主人公は「このとき」・「130」ぐらいです。

リアは「・」・「5ぐらい」。

## オリキヤラ（バグキャラ）紹介

名前	ガウル・デ・ポンド
性別	漢
種族	バグ（一応、人間）
特徴	バカっぽい。あとバグ。
L V	・ 1 2 7
H P	2 1 4 5 0
E P	3 0 0 0
S T R	1 7 3 4
D E F	1 5 2 6
A T S	1 3 8 0
A D F	1 3 8 0
S P D	7 8
D E X	・ 3 0
A G L	：
	4 9
容姿	ネギまのラカンをもつと濃くした感じ。
装備	

武器 気合

防具 服

靴 頑丈な靴

アクセサリー  
・漢の証  
・なし

クラフト

気合防御 CP・20消費  
攻撃を一回気合で完全に防御する。

うりあ！ CP・20消費

すごいパンチ。範囲、縦・横・斜め2マス。

気合 CP・30消費

気合でSTR DEF SPDを3ターンUP

百連打 CP・30消費

気がのつた凄まじい拳の百連撃。アーツ解除。

???

Sクラフト

## 漢の一撃

全身全靈をかけた一撃。全てを碎き全て破壊する。  
その後ろ姿は漢だった。

## 零・我雨流砲

練りに練りこまれた氣弾が雨の如く降り注ぐ。  
そして大きな気の流れを作り全てを破壊する。

闇話 ～剣士と紳士と少女～（前書き）

厨一です。

仲間を増やすうえでキャンペーンです。w

今更ながら、今回も世界観壊しますので

それが不快な方はお読みにならない方がいいです。

ではじめーー！

## 闇話 ～剣士と紳士と少女～

今日も今日とて筋肉<sup>バカ</sup>と喧嘩したのちリアを鍛えてるシユウだ。  
つてかいくら俺が指輪で力を封印してるからといってあの筋肉は対等に

渡り合つてくる。バグすぎるだろ！！

そういうえば指輪について話してなかつたな。封印に使つてる指輪は黄、大聖堂の

地下にあるだだつ広い場所から借りてきたんだぜ。

死ぬまで借りるだけだから盗みではないぜ？そこんとこ勘違いするなよ。

まあその指輪なんだが、めっちゃボンゴレリングに似てるんだわ　ｗｗ

実際、炎も出せたし武器に炎を纏わせる事もできた。

俺は封印の術式を入れるものとしか使ってないけどな！

ガウルには晴？と思わしきリングを『』えた。あのバカはすぐに炎をだしたけどな。

あいつの耐久力が無駄にあがつて厄介なことこの上ないな。

リアには嵐？と思われるリングをあげた。

“これは婚約指輪ですか？！”と戸惑っていたが俺が“そんな訳あるか！”って言つたら

もの凄く落ち込んでたな。なんでだろ？色が気に食わんのか？

そんな訳で、残りの指輪分は仲間を集めたいかなあと思案してる。

さて、考えてる中にリアが気絶したから昼飯作るか。

昼飯を食い、午後の訓練に入らうつすると三人組が近づいてきて喋りかけてきた。

男一人に、少女が一人。なんだこいつら？

「あの、すみません。少しお聞きしたいことがありますよろしいですか？」

胡散臭そうな笑みを浮かべた青年が喋ったのだらう。その見た目をみると教会関係者

のようだ。

「ああ。 かまわないぜ」

そう返事をすると、その青年は“ありがとうございます。”といいスマイル100%

を向けてきた。

~~~~~

説明中

べ、べつに作者の力量がない為とか思いつかなかつたとかじゃないんだからね！

勘違いしないでよ！

~~~~~

ふむ、なるほど。話を纏めると「ひにひに」だった。

- ・最近よく地形が変わる。
- ・赤毛の奴と筋肉の塊が原因らしい。
- ・連れに幼い女の子がいるらしい。

・それらの調査および討伐または説得の為、私たちが来た。

それって俺たちじゃね？だつて覚えあー「ええ、私の考えでは貴方たちとにらんです」

この胡散臭い笑みを浮かべる奴きれーだ。

「まあ、私もそうだと思つがな。」

いま喋つた奴はもう一人の男で老け顔だ。手と物を見る限りこいつ

は剣士らしい。

「でも、私たちはそんなことするつもりはないわ。」

「どういひことだ？」

「私達は教会から出たかっただけなのです。世界を見てみたかった。

だから、この仕事を請けたんです。あなた方を探したのは単に興味があつたからです（へへへ）」

まあそのまま話し込み、仲間になることが決まった。

胡散臭そうな笑みを浮かべるのがベル・エルピー

老け顔剣士がリュウ・チルダ

少女がフェル・クロー

「一気に大所帯になつたなw」

それぞれに仲間の証として指輪をあげた。

おまけ

フェル「私たちってあまり喋ってなくない？」

リュウ「ああ、そうだな。」

フェル「もつと出番ほしいい！――！」

リュウ「ああ、そうだな。」

フェル「もう……リュウはわざからそれしか言わないじゃない！」

本当に出番ほしいの？」

リュウ「仕方ないだろ。作者に技量がないのだから。」

フェル「そうね。仕方ないわ……。ハア……。」

ベル「ふふふ。私の先行勝ちですね（――ニヤリ）

闇話 ～剣士と紳士と少女～（後書き）

ベル 霧 リュウ 雨 フェル 雲 です。

ボンゴレリングの使命？みたいのはありません。

好きだから出しただけです。後は仲間の証みたいな。

効果的には、状態異常無効とSTRとDEFのアップです。

後はそれぞれの指輪の固有能力があります。（マスタークオーツみたいな。）

誤字・脱字などがありましたら教えてくださいがたいです！

## 第五話 機輪と戦争と組織（前編）

厨二です！

そろそろ話を進めてみたいと思います！

最後の仲間は戦争中に会う予定です。

では、本編をどうぞ！

## 第五話 指輪と戦争と組織

俺たちは今、大平原で食事をしている。

仲間たちとゼムリア大陸を巡つたりして昨日、西ゼムリア大陸と呼ばれる

ゼムリア大陸の西側に帰ってきた。この大平原がちょうどスタート地点だったのだ。

ここに居る面子は5人。ガウル、リニア、フジル、ベル、俺だ。

え? リアは? て? あし? は一人旅にてちまつた(・・・)

力又夫が「まあ力又夫か！」俺やガウルは次ぐ実力なしW

てかあの指輪のアーティファクトは不老効果があるみたいにな  
だ！！

俺は元から不老だし、ガウルもバグだから不老だろう。

んだ!! 気つけた理由は940年頃だったのに、リアが指輪から炎を出せた

俺は今まで出せなくて落ち込んでたリアを慰めるのが好きだったんだが

炎を出したときの笑顔と“これでお父様と一緒に”という言葉に

舞い上がってしまったww

その日から10年経つても見た目が変わらないリアを見て気がついたって訳だ。

他の奴らも炎を出した日から不老になつたみたいだ。

まあ仲間達と世界を周つて感じたのが紛争が多いことだ。

鎮圧し、救援などを周つていたらだんだんと有名になつていき人が集まるようになつてきた。そこで俺は思いついた。

この世界がネギまじやないなら俺があの組織とグループを作つてもいいんじゃない?ってww

てなことで、947年に悠久の風を作つちやいました!

主な活動としては、紛争区域での救援・援助や危険な魔物・悪魔の討伐など。

危険な仕事もあるためクエストをSASSY D -までの難易度に振り分け

自分のランクにあつた仕事を選べるようになつた。ちなみにSASSYランクは今のところ

創始者の俺たちしかいない。

そして俺たちはその中でもアラルブラというグループで活動している。

まあ今はリアがいねえーけどな。

もういえば最近、エレボニア帝国の方がきな臭い感じになつててるらしい。

紛争が頻繁に起こっている。俺達も見つけ次第鎮圧して市民の救援をしてるが

近いうちに戦争が起きそうだな。

はあ～。リアは元気にしてるかね～。

／＼＼現在 七耀暦 952年頃／＼＼

## 第五話 挑戦と戦争と組織（後編）

「いやあで読んでいただきありがとうございます。」

世界観壊しまくつですね（苦笑）

誤字・脱字などがありましたら教えていただければありがたいです！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7332y/>

---

チート主が歩む軌跡

2011年11月27日20時53分発行